

第8期神奈川県科学技術イノベーション政策大綱（骨子案）の概要について

(1) 趣旨

県は、県政運営を科学技術の面から支えるため、平成2年に科学技術政策の基本的な方向を示す「神奈川県科学技術政策大綱」（以下「大綱」という）を策定し、科学技術政策に取り組んできました。

現在、社会課題や地域課題が複雑化・多様化し、AIやデジタル技術等の科学技術が急速に進展する中、県民ニーズを踏まえ、研究成果を社会実装につなげ、地域社会の課題解決につなげていくことが求められています。

そこで、社会課題や地域課題の解決に向け、研究・実証・社会実装までを一体的につなぐ科学技術イノベーション・エコシステムの構築を進めるとともに、それを支えるイノベーション人材の育成を推進するため、新たな「大綱」を策定します。

(2) 「大綱」骨子案の概要

ア 基本目標及び計画期間

(ア) 基本目標

- 1 誰もが安全で安心してくらせる地域社会の実現
- 2 持続的に発展する産業の創出・育成
- 3 イノベーション人材の育成

(イ) 計画期間

令和9年度から令和13年度（5年間）

イ 県の役割等

- ・科学技術イノベーション・エコシステムの構築
- ・イノベーション人材育成の仕組みづくり

ウ 科学技術イノベーション・エコシステムの構築の主な項目

(ア) 重点的な研究目標例

最先端医療・ヘルスケア・未病技術、介護・福祉技術、エネルギー・環境保全技術、防疫・防犯・防災・減災技術、資源・食料技術、ロボット・海洋・宇宙・材料・量子・AI技術等

(イ) 視点

県民目線、現場目線、ともいき、短期と長期 等

(ウ) 関係機関との連携

大学等の研究シーズと企業等の連携を設計しコーディネートする。

(イ) 拠点の整備・連携

拠点間連携を進めるための場の設定やネットワークを強化する。

(オ) 知的財産戦略

大学等が保有する技術の企業への移転・ライセンスを促進するため、コーディネーターによるマッチング機能を強化する。

(カ) 実証段階での評価

新しい技術やサービスを試す県内の実証フィールドとの連携を、積極的にコーディネートする。

エ イノベーション人材育成の仕組みづくりの主な項目

イノベーション人材は、新たな社会的価値を創造するため、①研究などによる知の創出、②技術やアイデアの社会実装、③関係機関の連携・調整を行い、前例にとらわれず、主体的に挑戦し続ける人材。

(ア) 小中学生へのアプローチ

子ども達の興味の入口を増やし、学びの内容等を広く発信する。

(イ) 高校生等へのアプローチ

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）等と連携した取組を検討する。

(ウ) 大学生等へのアプローチ

コーディネート人材による実証フィールドの提供等を支援する。

(エ) 県職員へのアプローチ

コーディネート人材のエコシステムの構築に向け、教育から実証・社会実装の実践活動までを一気通貫で進める仕組みを検討する。